

川額悪戸新田の青面金剛

昭和三十二年
事務局長 島田 民夫

青面金剛は庚申信仰と深い関係がある。庚申信仰の中で初期の頃には青面金剛の木造が東大寺にあり、鎌倉時代の作といわれている。石造物の青面金剛は、庚申の本尊として室町時代以降、特に江戸時代には全国的に多くつくられている。

石造物の青面金剛の種類は多種多様である。掛け軸の青面金剛の種類も多い。庚申信仰が盛行したので、多くの種類の像がつけられた。軸も各地で発行され、像容も多種多様である。

庚申信仰上、青面金剛が現れるのは「青色大金刚薬叉辟鬼魔法」であるが、この行法は伝戸病(結核)の予防治療を青面金剛に祈るもので、この魔法の末尾には「老子守庚申求長生経」が付加されている。室町時代中期頃につくられたとみられる「庚申縁起」には、礼拝本尊に文殊薬師釈迦陀観音などととも青面金剛があげられている。庚申の夜の子

丑の時刻に釈迦青面金剛を礼拝せよというのである。こうして青面金剛は、伝戸と三戸との関連から庚申の夜の崇拜対象となった。つまり、伝戸病の病原の伝戸を除く青面金剛に、三戸の駆除を祈願するためである。六十日に一度めぐってくる庚申の日に、その夜眠らずに過ごして健康長寿を願う信仰がある。これを守庚申や庚申待という。

この源流は人の身中において、人を短命にする三戸を除く去して長生を願う道教の信仰にある。道教とは、中国三大教(儒教、仏教、道教)の一つで、日本にあって庚申信仰で仏教と融合したものである。



青面金剛

川額悪戸新田の青面金剛は、過日、森下下宿の河原畑強さんから電話でお知らせいただき確認した「青面金剛」石造物で建立は明和四年。今から二百五十三年前のものである。

参考資料 日本石仏事典第二

版庚申懇話会編



地域包括支援センターだより

実践！介護予防 理学療法士サロン訪問写真館

昨年5月から約1年をかけ、村内の筋トレに取り組むサロンに、群馬パース大学の岡崎大資先生(理学療法士)が訪問・指導を行いました。「体が軽くなった」「次回の筋トレから取り入れたい」等の声が聞かれました。今後も訪問を予定しています。



筋トレ体操ポイント講座



腰痛・膝痛予防



尿もれ予防



ウォーキングのすすめ



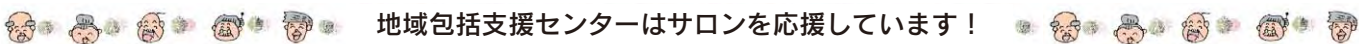
肩こり・腕の痛み予防



心と身体の健康講座



ちょこっとストレッチ



地域包括支援センターはサロンを応援しています！